

黒埼町全図

※路線や位置はおおまかなものです。

平成五年四月に、広域行政対策課を 設置。合併問題の調査・研究にあたる

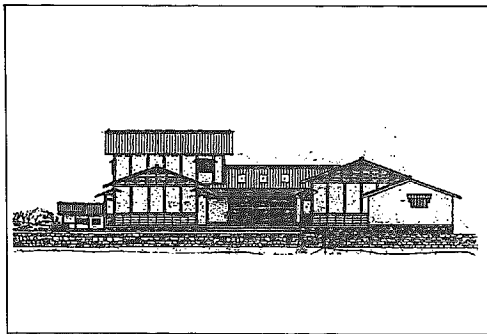
平成五年三月定例議会において、黒埼町課設置条例の一部改正についての議案が提出され、可決されました。その結果、四月から広域行政対策課が、新たに設置されました。

新潟市とは地理的にも隣接し、通勤、通学など多く、行政の広域化は、どうあるべきかという考え方の中で、合併問題調査検討会を平成四年十一月に発足させ、

その調査・研究のため、広域行政対策課が設置されました。今年度の業務としては、合併による行政全般の比較・検討資料づくりを行います。

大型シッピングセンター内に美術展示場ができる

新潟ふるさと村の、国道八号線を挟んだ反対側に、黒埼ショッピングセンターパルス(店舗総面積六二一八㎡)が平成



雪梁舎の完成予想図

五年十二月オープンを目指して工事が行われていますが、同センター敷地内に美術や芸術家などの育成を目的とする財団の「雪梁舎」(理事長・榊賢一氏、榊コメリ社長)が、美術展示場を平成六年八月にオープンする予定です。

展示場の名前も「雪梁舎」。建物の大きさは七百九十二㎡で、雪国新潟をイメージして、完成予想図のような、梁の太い白壁づくりになります。

新作・常設展示場のほか、芸術を志す人の集える場をしたい、ということでも研修室、茶室なども設置する考え。

展示作品は、新潟県にゆかりのある作家や著名な芸術家の作品を中心に紹介。このほか、美術展などで財団賞を授与して、芸術を志す人達の支援も計画されています。

黒埼町の 今昔

執筆 宮田栄門

新聞からたどる黒埼の歴史 (九)

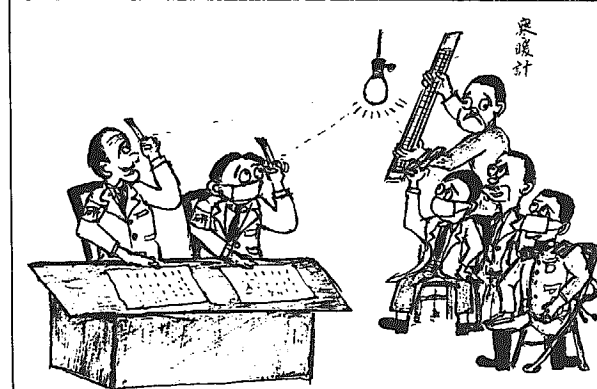
ランプに変わって電灯が登場したのが、明治十年代。当時は人体に害があるのでは、と真面目に検査が行われた。

ごもりの用意をなす者もある由なるが、その惨状は実に目も当てられぬ程なりとぞ。

明治十八年、この年新聞記事の如く県下至るところ水害に苦しめられた。筆者が小學生のころ、よく乞食(昔はくわんじんと呼び夏でも汚い着物にマントなどを着た、ものもらい)が町へ廻つてきたが、

明治のころ、大野でも町の人々の大半が日雇いなどの生活者で、水害等の不況で仕事もなく、冬期の食糧のたしにと新発田(昔の金巻、大野の領主の地)あたりまで、残飯のくわんじんに行った

ごもりの用意をなす者もある由なるが、その惨状は実に目も当てられぬ程なりとぞ。明治十八年、この年新聞記事の如く県下至るところ水害に苦しめられた。筆者が小學生のころ、よく乞食(昔はくわんじんと呼び夏でも汚い着物にマントなどを着た、ものもらい)が町へ廻つてきたが、明治のころ、大野でも町の人々の大半が日雇いなどの生活者で、水害等の不況で仕事もなく、冬期の食糧のたしにと新発田(昔の金巻、大野の領主の地)あたりまで、残飯のくわんじんに行った



陸軍での検査は、こんなふうに行われたのだろうか？

という。板井の故岡田幸平先生からも、当時板井の人たちも御城下村にありたりまでくわんじんに行つたと聞かされた。

貧困患者へ施業 (大野) 明治十八年十二月二十九日記事 西蒲原郡金巻村第三百三十番地医師谷井徳太郎、同村葉鋪児玉新太郎の両名は目下飢餓に迫るの貧民多く、疾病等に罹るこ

とあるも治療を受ける資力なくして、住々非命の死を遂ぐるものあるをあれみ金八十四を醸出して極貧の患者に限り、施業せんと過般同郡役所へ出願に及

びしに此の程、右願意を聞き届けられしという。 ※医師谷井徳太郎は現在諏訪町谷井輝雄氏の三代前で、大野小学校高等科設置でつくれた人 貧民施与 (金巻村) 西蒲原郡金巻村に於ても貧民多く、旧臘中不稔の情景なりしことは当時の紙上に掲載せしが、自今益々窮困を極むるので同地有志者は応分の金員を醸金し、同村戸長役場に於て五十歳以上十五歳以下の貧民へ稗一枧、米一合を日々施与することに協議の決定せしという。 水不足 中ノ口川堤防に數十の水車 明治十九年五月二十九日記事 昨年の春以来降雨打続きで出水のため破堤の害を蒙りし村方は枚挙するに暇あらざる程なりしが、本年は之に引き替え各村とも概して水不足なる中にも西蒲原郡金巻村近郷は、殊に甚しく耕耘にすら差しつかえる程なれば、右村方にては数十の水車を中ノ口川堤防に備付け田方の灌漑に供せんと目下夫々準備中なりとぞ。 数度の放火 犯人は子供 明治二十年四月十四日記事 西蒲原郡金巻村は戸数六百余りにして、多くは商業家なるが、近年は打続きたる不景

気の為、住々破産し糊口すら凌ぎがたき場合となりたる処客月下旬の火災以来は日夜の放火沙汰にて何れも早く見認めたるため本物にはならざりしが、同所の人々は不安堵の至りなればとて今度一町毎に二名の見張番を置くことに決したりと、又同地巡査派出所にては放火犯奴捜索に専ら盡力中なりと、

火付け犯処分 西蒲原郡金巻村(大野)山田某長男佐一郎(十二年一月)は去る二十日高橋剛太郎の豆木鳩の傍らに火を焚きたるより該鳩に燃え移り數十戸を類焼したる際に、十六歳未満なるを以て減軽の上、過料金一円に処せられた。

金巻村大野では、先月下旬以来放火騒ぎが続き各町内では見張番を置き巡査も犯人探しに大わらわ、そんな中、数十戸も焼く大火がおこった。犯人はなんと十三歳になる男の子の火遊びだった。

金巻村の近況(大野を含む) 明治二十年五月二十日記事 西蒲原郡金巻村は旧大野を併せて戸数五百九十余戸ありて地價は三万九千円余ありといふ。地價は以上の如くなるに村費は意外に増加し、村民の困難言わん方なし、現に二十年度の課賦徴収の高は九百余円なるが未納者はすこぶ

の多かるべしとの事なり。併し村会に於ては原案よりも貳百余円を減じたるも、尚この如くなりといふ。(中略)

過日、出火のため類焼せし家々は半ば家作せしも再建のならざるもの数戸ありといふ。小学校は従来より負債ありてすこぶ不振の有様なり、現在同校の生徒は五拾名以内なり。(後略)

明治二十年度の金巻村(大野を含む)の概況である。これにより村役場、村財政困難の模様、当時の大野校の状態、村の人たちの暮らしが偲ばれる。また、この様な村経営の状況から村人の間に次のような問題がおこった。

役場合併を出願せんとす(金巻役場) 明治二十年六月十九日記事 (前略) 役場経費も意外に増加するより配下の人民は、彼是と善情を唱へ密かに集會するもありといふが、該集會の目的は該役場を板井戸長役場に合併の儀を本県へ請願し、予て名望ある萩野左門氏の配下に属さんことを欲するにありといふ。 萩野氏の名を慕つて、このように板井村戸長役場に合併を希望した人たちがあつたかも知れないが、現実には実現しなかつた。